

令和6(2024)年度 助産師学科 一般入学試験問題から一部抜粋

【母性看護学】

問 正しいものには○を、誤っているものには×を記入しなさい。

- (1) 排卵はエストロゲンのフィードバックによる、黄体形成（化）ホルモンの急激な増量によりみられる。
- (2) 子宮内膜はエストロゲンにより増殖期となり、プロゲステロンにより分泌期となる。
- (3) プロゲステロンには体温上昇作用があり、その作用により基礎体温が二相性を示す。
- (4) 着床前診断は妊娠中に胎児の疾患の有無を診断する。
- (5) 子宮内膜症は更年期のエストロゲン欠乏症状に含まれている。

問 次の事例を読み、設問に答えなさい。

Aさんは、本日妊娠38週2日であり、破水感があり入院した。
妊娠37週の妊婦健診では、児は頭位で推定体重は胎児発育曲線の基準値内であることが確認されている。この時、内診所見は子宮口3cm開大、ステーション-2、展退30%であった。
本日入院時の胎児心音は120～135bpmであり、内診所見は37週の妊婦健診時と変化なく、破水が確認された。陣痛は開始していないため、病室で様子を観ることになった。

A 次の①～⑤に適切な語句を入れ、文章を完成させなさい。

- (1) Aさんにおきている破水は(①)破水である。
- (2) 膣内のpH4.5～6.0、羊水のpH7.1～7.3であり、膣内が(②)を示せば破水している可能性が高い。破水感の訴えがあった場合は、BTB試薬等で確認し、羊水の(③) (④) (⑤)を観察する。

B 看護計画としてあげたプランで、正しいものに該当する番号を2つ選びなさい。

- 1 胎児心音を測定する。
- 2 バイタルサインを測定し、発熱に注意する。
- 3 臍帯脱出は考えにくいので、観察の優先順位は下げる。
- 4 膣から上行性感染を予防するため、入浴し清潔を保持する。
- 5 急速遂娩の準備を行う。

問 産後の健康診査について正しいのはどれか。該当する番号をすべて選びなさい。

- 1 褥婦の心身の状態や子育ての状況を把握するために医療機関や保健所、助産所で産後2週間および1か月の時点での健康診査（産後2週間健診・産後1か月健診）が実施されている。
- 2 健康診査の機会に母親の不安や悩みを傾聴し、相談・助言を行う。
- 3 産後うつの早期発見や新生児への虐待予防の観点から、産後2週間健診・産後1か月健診などの産後健診の費用は、公費の助成が受けられる。
- 4 母親の心理状態を把握するために、本人の希望を踏まえてエジンバラ産後うつ病自己評価表（EPDS）が活用される。

問 出生時体重3,350gの新生児。生後3日目の体重は3,025gであった。体重減少率(%)を計算し、小数第三位以下切り捨てで答えなさい。